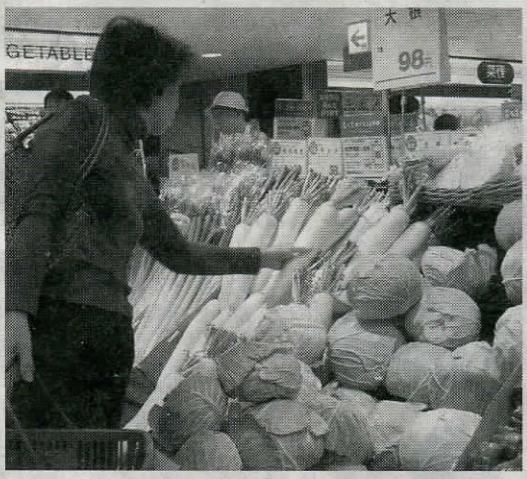
秋冬野菜価格、前年を下回る

主力品目は順調出荷で

農畜産業振興機構

安値が続く野菜だが、農畜産業振興機構が開催した今年度第2回目の野菜需給協議会によると、今年産の冬キャベツ、秋冬ダイコン、タマネギ、冬ニンジン、秋冬ハクサイ、冬レタスなどの秋冬野菜は、いずれも順調な出荷により、軒並み前年比価格安で推移する見込みだ。各々の品目の概況は以下のとおり。



安値が予想される秋冬野菜

【冬キャベツ】

▽供給＝作付面積は千葉および愛知は前年並み、神奈川は前年をかなり上回る見込み。生育状況は猛暑の影響から一部に遅れがみられたものの、9月以降は回復し、作柄は良好。出荷量は期間を通して前年を上回る見込み。

▽需要・価格＝期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は前年を下回って推移する見込み。加工・業務用については、年内は価格が安いので国産が主体となるものの、年明け以降は中国産および韓国産も出回る見込み。

【秋冬ダイコン】

▽供給＝作付面積は千葉、神奈川、徳島ともに前年並み。生育状況は一部に干ばつや台風の影響があったものの大きな被害はなく、概ね良好。出荷量は11月は前年並み、12月以降は前年を上回る見込み。

▽需要・価格＝期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は前年を下回って推移する見込み。気温が低いと肥大が進まず歩留まりが悪くなることに加え、消費が伸びることから、価格が上昇する可能性もある。ダイコンはカット売りの割合が増加している。加工・業務用では市場外流通のウェイトが高くなっている。

【タマネギ】

▽供給＝作付面積は、北海道は前年をやや上回る見込み。生育状況は、5月上旬の降雨の影響から一部定植作業に遅れが見られたものの、生育は順調でほぼ平年並み。出荷量は期間を通して前年を上回る見込み。

▽需要・価格＝期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は前年を下回って推移する見込み。加工・業務用においては、国産の生育状況にかかわらず、輸入むき タマネギへの需要は根強い。今年は中国産が不作であったことから、皮付きタマネギの内外価格差は小さくなっている。

【冬ニンジン】

▽供給＝作付面積は千葉は前年並み、愛知はやや下回るものの、長崎はやや上回る見込み。生育状況は、一部の地域で豪雨や台風の影響を受けたが順調に生育。出荷量は期間を通して前年を上回る見込み。

▽需要・価格＝期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は前年を下回って推移する見込み。家庭消費用はM～Lサイズ、加工・業務用は2L～3Lサイズが好まれることから、それぞれの需要に見合った生産を行う必要がある。

【秋冬ハクサイ】

▽供給＝作付面積は茨城は前年並み、愛知はやや下回るものの、兵庫はかなり上回る見込み。生育状況は、一部の産地で台風等の影響を受けたが、夏場の干ばつの影響もなく、順調に生育。出荷量は、茨城が年明けに作型を変更したことから11月は前年を下回り、12月は前年並み、1～2月は前年を上回る見込み。一方、3月は兵庫の作型の変更により前年を下回る見込み。ただし、11月の気温が低くなると生育が停滞し、2月以降の供給が下がる可能性がある。

▽需要・価格＝11～12月にかけては、昨年は気温が高く安価であったことから価格は前年を上回ると見込まれるが、1月以降は、前年を下回る見込み。O－157による食中毒の影響により漬物需要が減少しており、今後も尾を引く可能性がある。11月の気温が低くなると出荷量が減少し、2月以降の価格が上がる可能性がある。

【冬レタス】

▽供給＝作付面積は、茨城は前年をわずかに上回り、静岡は前年並み、兵庫はわずかに下回り、香川はやや下回る見込み。生育状況は一部の産地で干ばつや台風の影響を受けたが、その後は順調に生育。出荷量は期間を通して概ね前年を上回る見込み。

▽需要・価格＝期間を通して概ね順調な出荷が見込まれることから、価格は、11月を除き前年を下回って推移する見込み。11月は昨年は安値だったことから、前年を上回る。なお、天候に大きく左右される品目であることから、天候次第で価格が変動する可能性がある。九州の加工・業務用向け産地の作柄次第で、価格が上昇する可能性も。加工・業務用では、米国や台湾から一定量の輸入がある見込み。